

第62回全国植樹祭大会テーマ

◆テーマ 緑の神話 今 そして未来へ 紀州木の国から

◆主 旨／日本中に木を植えた五^{いたけるのみこと}十猛命は、紀伊国にお鎮まりであると日本書紀に記されているがゆえ、和歌山県は古来より「木の国」と呼ばれ、暮らしの中で森や木が重要な財として扱われてきました。

また、こうした時代の中で、蟻の熊野詣などの歴史・文化や多様な森等が育くまれ、現在では、陽の光に輝く照葉樹林、柔らかかに揺れる落葉樹林、コウヤマキやトガサワラなどを混じえた針葉樹林、優良な木材や紀州備長炭などを生み出したスギ・ヒノキの人工林やウバメガシ林、高野・熊野の精神文化や世界遺産などを生み出してきた奥深い森など、自然と県民の暮らしが創りあげてきた豊かで多様な森林と木の文化があります。

一方、近年では、地球温暖化等の問題から、適正な森林の管理や環境保全が、強く叫ばれています。

こうした中、平成23年春、和歌山県で「第62回全国植樹祭」が開催されることとなり、これを契機に、森に感謝しつつ、その多様性を保全、かつ向上させつつ、将来に引き継いでいくことが大切です。

このため、「第62回全国植樹祭」の開催は、次代を担う子供たちが、親や祖父母等とともに、このすばらしい自然の中で、森林の豊かさや木の文化などを学び、自らによる苗の育成や植樹などを通じ、森を創り、育む気持ちを醸成していこうとするものです。

